

# 南山大学 図書館 報

No. 6 1990.7

## 書庫の沈黙

たか はし ひろ し  
高 橋 広 次  
(法学部助教授)

学生の頃より私は図書館を頻繁に利用する習慣がなかったので、その適切な活用法をここに説明する力はないが、卒業前に、気に入っていたあるドイツ語文献の翻訳を、いわば卒論代わりに完成しておこうと、朝九時から夜九時の閉館まで毎日のように入り浸ったことが今なお残る図書館についての思い出である。通っているうちに、日中はさしも広い館内も出入りの学生で賑わっていたが、夕食後は閑散となり、常連のみが三々五々居残って勉強しているのに気づくようになった。中でも二人の女性の熱心な読書姿が一際目立っていた。一人は眼鏡を光らせて静かに哲学書を繙く理知的な横顔。一人は六法全書を片手に法律書を辿る、幾分似合わしからぬやさしげな横顔。そうした横顔を垣間見る楽しみがなければ、我にしては珍しい長期の図書館通いも続かなかったかもしれない。

卒業後、研究者となって図書館の書庫に入ることが許されるようになってからは、別段の用事がなくとも、入庫すること自体が一つの愉しみともなった。そこには、一步踏み込めば真昼でも世俗の雑踏がふいにかき消され、突然森の中に分け入ったかの如く書架の列が黒々と連なる。古書の放つ微臭いにおいと歩むごとにきしむ床の音を気にしながら、電燈のスイッチを探り当てるまでは、さながら乱歩の世界か。この森厳な書架の沈黙は、パスカルではないが「私を畏れさせる」に十分な

緊迫感を備えていた。どの一冊一冊にも著者の音にならぬ声が解放を求めて文字に凝固し踞っている。しかし手にとりさえすれば、そこから見知らぬ別天地を眼前に展開してくれるのである。この沈黙の世界はまた何と遠慮深い豊饒さを秘めていることであろう。数々の書物に結局は眩惑されて書庫をあとにしたときは、映画館を出て百歩ほどはまだ劇中の主人公にでもなったかの如き足取りであったのかもしれない。

研究歴ももう二十年近くになり、この間幾度となく方々の書庫のお世話になってきたが、書架の前に佇むとき、未だに書物を「資料」と呼ぶような能力の余裕はない。どの一冊一冊にも著者の幾多の錯綜した家庭生活・社会生活を背後に精力を傾注した思索の痕跡が刻まれているであろうに、大半の書物はいっかな人目に触れることなく書庫の一隅を寂しく守っている。この冷厳な事実を目の当たりにすると、将来架けられるかもしれぬ我がささやかな一書にも同じ宿命を連想し、しばし暗然たる気持ちに陥る。かつて悦ばしき知識の蔵と思われたこの宝庫も、現在では、学問を職業に選んでしまった私に、人間の能力の有限性、学問営為における創造の困難性と成功の稀少性を教える無言の教師となっている。されば書庫は物言わずして、自ずとひとを謙虚ならしめる至大の威徳を備うと言うべきであろうか。

## 人生の意味を見出す読書

ト クワンスン  
都 珧 淳  
(漢陽大学校・教授)

「人生は意味のあるもの！その意味を見出すのが我が日々のしごとである」とロバート・ブラウニングは歌った。人生の日々には楽しい時もあり苦しい時もある。しかし、よく考えて見れば、世上万事は必ずそう在るべくになっている。ある意味では、人生のすべては必然の理によって進められて行くものであるといえよう。我々がその理を知りうる日こそ、我々が人生の正しい意味を見出すときではなかろうか。

人間は“知る”という特長をもっている。萬物の霊長であり、宇宙の知覚点である。人間は客観的世界を知覚するだけでなく、知覚する自分自身をも客体的に知覚することができる。自分自身を知り、人生の理を知り、人生の意味を見出すことは、誠に人生の楽しみである。

しかし、酔生夢死の日々を暮らして行く人間にはこういう人生の楽しみがあろうはずがない。画家はカンバスに自然の景色をありのままに描き出すことにより、無上の楽しみを感じる。我々も辛い時こそ、自分自身のありのままの姿を心の中に写し出し、これによって人生の意味を味わうことができる。かえって楽しくなるのではなかろうか！ その時、我々はすでに人生の観照者であり、芸術家であり、哲学者になるのである。

それでは、人生の意味を見出すことが、どうして楽しいことだと言えるのであろうか。それは、人生の価値を高くしてくれるからである。自分の人生の意味を知る瞬間こそ、人生の真実の価値を自覚する瞬間であり、同時に自分自身の価値を高くすべきことに

目醒める瞬間でもある。

このように考えると、人生の日々は楽しいものになってくる。しかし、我々の知覚には各々限界があるので、人生の真実相を正しく見出すことはなかなか難しい。故に、ここに読書の必要が生じてくるのである。孔子は「学んで思わずんば罔く、思つて学ばざれば殆し」と言ったが、それは思索によるだけでなく、読書を通じて人生の意味と価値をよりよく見出していくように戒めた言葉と見てもよからう。

しかし、今の世の中には読んで考える読書三昧の雰囲気があるとは言われまい。人をして感覚的快楽に耽らせる快楽文化、もしくは功利的知識・情報を断片的に伝える技術文化だけが氾濫している。そのために読書人が少なくなっただけでなく、よき書物もまた少なくなってきた。これは実に悲しむべきことだと言える。

昔、宋の真宗は「書中に千鍾の祿（粟）と玉の如き美人がある」と言つて、読書を勧めたのであるが、このような読書観は決してよいものとは言えない。そのような感性的・功利的読書観は実に二律背反であつて、読書を勧めるにはもう呼訴力を喪つていると言わざるをえない。そんな目的であれば、読書よりは他の手段を選ぶのが現代人であるからである。

ここに、人生の意味を見出し、人生を豊かにし、人生の価値を高くしてくれる読書の必要を痛感する。このような読書こそ、真の意味において人生を楽しくし、人生を幸福にしてくれるものであると思うのである。



## 歌舞伎を楽しもう

やす だ ぶん きち  
安 田 文 吉  
(文学部教授)

「〇〇〇って知ってますか？」

「いいえ、知りません。〇〇〇って何ですか？」  
とここまでくると、次の一言は歌舞伎好きの  
人なら決まっている。

「知らざあ言って聞かせやしょう。」

これは、有名な（と言っても知らない人はさっ  
ぱり知らないのだが）弁天小僧のせりふである。  
河竹黙阿弥の『青砥稿花紅彩画（あおとぞう  
しはなのにしきえ）』（通称『白浪五人男』）  
の「浜松屋の場」で、本店のお嬢さんに化け  
て強請りを働こうとして、化けの皮の剥がれ  
た弁天小僧菊之助が開き直って、自分の生い  
立ちを述べる件での開口一番。初演以来、数  
えきれないほどの上演を繰り返してきた名場  
面である。歌舞伎好きは、この一言で、振り  
袖を脱ぎ捨て胡坐をかいて、長ギセルを手に  
した弁天小僧の姿が目につかび、「ソラ来た、  
よし聞こう」となる。めりはりのない日常会  
話に、芝居のこぼれを利用して楽しみを加える、  
ちょっとした遊び心である。歌舞伎からこうい  
った楽しみはいくらでも引き出せる。と言っても、  
歌舞伎に馴染みのない人には、何のイメージ  
も広がらなければ、楽しみも湧いてこない。「何  
を気取って、くさい言い草」くらいにしか思  
えないであろう。

何ごとでもそうかもしれないが、歌舞伎は  
特に、知っている人と知らない人の楽しみの  
差が余りにも大きい。江戸時代以来、上演さ  
れ続けてきた歌舞伎は、前述の『白浪五人男』  
のような名作を多く生み出し、それらの作品

が様々な名優達によって演じられてきた。し  
かし、歌舞伎作品はいずれも数時間以上もか  
かる長大なもので、通し上演されることは容  
易なことではない。そこで、歌舞伎では名場  
面のみを上演する見取り上演が発達した。見  
取りは、作品の一部分のみを上演する方法で  
あるから、作品についての知識がないと、芝  
居を見ても理解できない展開がしばしば現わ  
れる。その上、独特の様式で表現されるので、  
なかなか馴染みにくい。こういった歌舞伎の  
性格は、いつの間にか歌舞伎を歌舞伎好きだ  
けの、隔離された楽しみにしてしまったので  
ある。

僕自身は、かなりの歌舞伎好きだが、隔離  
された楽しみ方はしたくない。もっと多くの  
人に楽しんでもらいたい、いっしょに楽しめ  
たい。そうしないと歌舞伎は遅からず、死ん  
でしまうだろう。歌舞伎はとても素晴らしい  
芸術だと思うが、演じる側と見る側が「かぶき  
（傾き）」続けなければ、だめなのである。  
僕は今、ほんとうに歌舞伎の行く先が心配だ。  
歌舞伎に馴染みのない方、歌舞伎を見て下さい。  
そして、歌舞伎の楽しさを知って下さい。そ  
のためには、芝居の始まる前にちょっと予備  
知識を。作品の粗筋や表現様式の約束を、ほ  
んの少し知っておくと、歌舞伎のわかりにく  
さは、ずいぶんと緩和されて楽しめると思  
うのです。御園座の演劇図書館などは、芝居前  
のひとつときには格好の場所、一度覗いてみて  
はいかがでしょう。

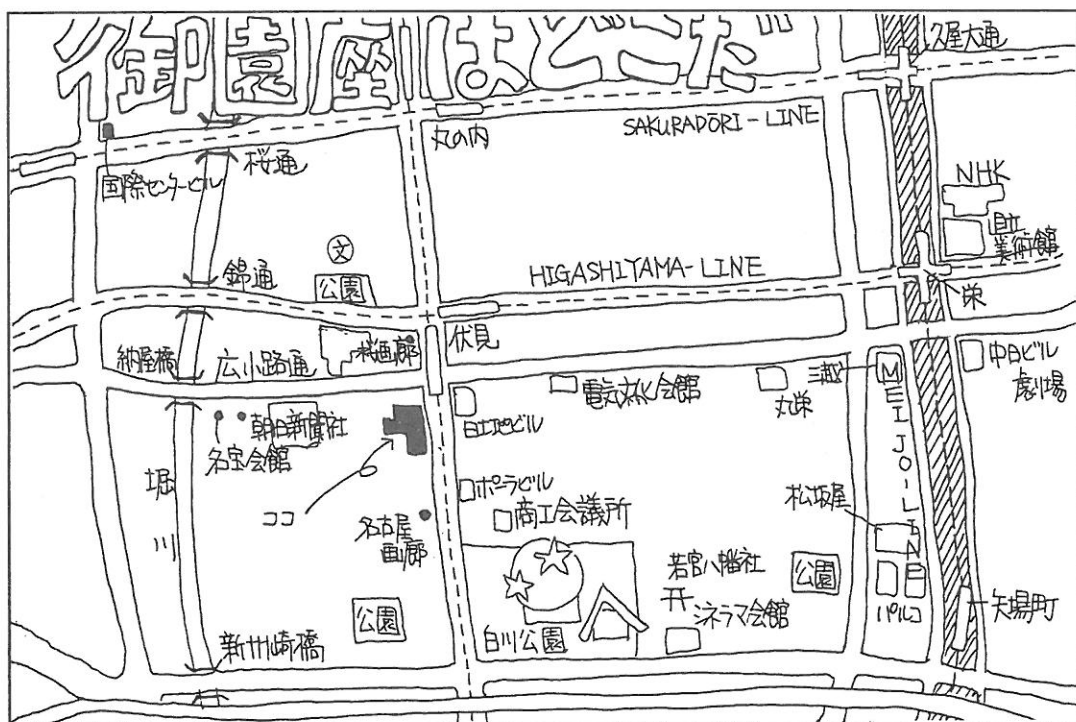
## 御園座演劇図書館

例年なら桜が満開のはずの4月5日、我々編集委員は伏見の御園座を訪れた。公演中の山本富士子・大和田伸也主演『春琴抄』や5月の『杉良太郎』に心引かれるものもあったが、やはり今日は取材が目的。「いかん、いかん」を連発しながら御園座の門をくぐった。（ここに中部地区で最初のボーリング場があったなんて…… いかん、いかん……）

御園座の地下2階、曲りくねった廊下を進んだ奥に目指す演劇図書館が、あった！ やけに立派な扉に一瞬たじろいだが、ここまで来て帰るわけにもいかずともかく中に入ってみた。扉を開けると右手にこぢんまりとした閲覧席（座席数14）、左手にカウンター、その奥にある書庫がまず目に飛び込んできた。早速、課長の宮島直司さんに演劇図書館について、その概要や利用などお話をいろいろと伺った。

○ いわゆる概要のような…… ○

演劇図書館は、昭和44年に設立された演劇資料室がその基となっており、その後規模の拡大にともなって昭和48年8月に演劇図書室と名称を変更した後、昭和50年1月に現在の演劇図書館に改称し、現在に至ったという歴史を持っている。類縁機関としては、早稲田大学演劇博物館、松竹大谷図書館、国立劇場の資料館などがあるが民間劇場に併設された図書館は全国でも例がなく、もちろんこの地区では唯一の演劇図書館である。設立の趣旨は「演劇に関する図書ならびに諸資料を収集整理し、これを広く一般にも公開して、演劇文化の向上・発展に寄与することを目的とする」というものであり、この趣旨に沿って約28,000冊（昭和63年4月現在）の資料が所蔵されており、わが国で出版された演劇関係基本書で入手可能なものはほとんど所蔵しているという。



図書分類項目でいうと、演劇総論、演劇評論・劇評、劇場・演出・演技、演劇史、各国の演劇、能楽・能狂言、歌舞伎、各種の演劇、舞踊・舞踊劇、人形劇、映画、大衆演劇、邦楽、戯曲などの図書となる（南山大の図書館では770～779の分類がこれに当たる、以下同じ）。このほか演劇関連分野のものとして文学（91 X）、歴史（210）、風俗、習慣、民俗学（38 X）の関係書も多数含まれている。視聴覚資料としては、レコード（義太夫、歌舞伎、邦楽など）、ビデオテープ、録音テープ、映画フィルムなどを所蔵し、また隈取、絵番付（公演プログラム）、台本、俳優色紙、芝居絵など演劇図書館ならではのものも多数所蔵している。

#### ○ 利用するのは…… ○

御園座と聞いただけで、若い世代は敬遠してしまいそうだが（御園座＝杉良太郎＋おぼちゃんのイメージがどうも強い……でも山口百恵やピンクレディのコンサートやってんだ……あゝ歳が……）、実際に書庫の中をさまよってみた感じ、現代の作品や小劇場関連の作品も多数見受けられたので、そこのところを宮島さんに質問したところ、御園座の演目にこだわらず、広く演劇一般に亘って収集しているとのこと、事実文化祭のシーズンになると高校生の利用が急に増えるそうだ。

利用については、閲覧は自由（ただ残念なことに視聴覚資料については現在利用できないとのこと）、館外貸出は友の会会員に限定している。

友の会は年会費2500円、入会手続きは簡単で、身分証明に学生証や保険証などがあればOK。現在の会員数は約500人、会員になると館外貸出（2冊2週間）の他に、機関誌「演劇」（年2回）のプレゼント、演劇教室（年4～5回）への招待、御園座公演案内の送付や御園座の観覧券の予約や特別割引観劇（十月顔見世のほか、指定の公演2回）などの特典を受けることができ、芝居好きのお母さんにも思わず教えてあげたい内容となっている。

#### ○ あと…… ○

そのほかにも移動演劇講座を開催したり、『日本演劇書目解題』などの出版活動を通して、広く演劇文化の普及に貢献している。

移動演劇講座は要望があれば、随時講師を派遣して、講演などを行ってもらえるそうで、特に表立ったPRはしていないにもかかわらず、毎年かなりの回数で開催しているとのこと。また電話によるレファレンスサービスも受付ており、これも毎日数件の問い合わせがあるとのこと。これらはすべて無料で行っており、この辺りにも演劇図書館の演劇文化に対する心意気が伝わってくる。

あとは受け取る利用者しだいということで、興味のある人は取り敢えず一度行ってみることをお勧めしたい。地下2階のちょっとわかりづらい位置にあるのが難点と言え難点だが、それだけに伏見のド真中、しかも頭の上で芝居をやっていることがとても信じられない静けさが保証されている。

もしかすると、御園座通のお母さんやおばちゃんにも一声かけてあげるのも正しい利用法の一つなのかもしれない。

★公開時間 午前10時～午後5時30分

★休館日 日曜日・祝日・年末年始

★TEL (052) 211-1451 (代)

(編集委員・山辺美津香、三谷靖司)

世間様では俗に国文科は歌舞伎に強い、と呼ばび習わしてきました。そんな世評に耳を傾け、日本文化の華、歌舞伎についての教養をはかる?! 国文科の貴方に贈る歌舞伎演目読みテスト?! ずずいずいっと、いよいよお披露目です。(正解は一番下にあります)

- |           |         |
|-----------|---------|
| ① 伊勢音頭恋寝刃 | ② 夏祭浪花鑑 |
| ③ 新版歌祭文   | ④ 色彩間苅豆 |

ここまでは10月「顔見世」の演目、中村芝翫、市川團十郎らが演じます。

- |         |           |
|---------|-----------|
| ⑤ 四季詠い歳 | ⑥ 南詠恋抜書   |
| ⑦ 恋別路   | ⑧ 番獅子富貴草台 |

正解は一番下にあります  
 ① 伊勢音頭恋寝刃 ② 夏祭浪花鑑  
 ③ 新版歌祭文 ④ 色彩間苅豆  
 ⑤ 四季詠い歳 ⑥ 南詠恋抜書  
 ⑦ 恋別路 ⑧ 番獅子富貴草台

## 便利な表示法の巻

それでは図1の『リスト表示』画面の10,11,21件目に示されている文献の詳細表示を順に確認してみましょう。今のあなたならカーソルをあわせて [PF2] その後 [PF3] でリストに戻り…再び [PF2]、[PF3] …… [PF8] でページをめくり、[PF2] ……といった操作を行うに違いありません。しかしそんな操作に満足しない見栄っばりのあなたが覚えなければならぬコマンドが『DOC』です。DOCコマンドは以下のような働きをします。

DOC=n リスト表示の「n」番目の『書誌詳細表示』画面を表示します。

DOC+n 現在の資料より「n」番目だけ後ろの『書誌詳細表示』画面を表示します。

DOC-n 現在の資料より「n」番目だけ前の『書誌詳細表示』画面を表示します。

それではDOCを使用した操作を説明しましょう。ポイントは『書誌詳細表示』画面で使用しなければいけないことです。これを他の画面で使ってしまうと恥をかく恐れがありますので注意が必要です。まず10件目の詳細表示を出します。11件目は10件目の次ですから『DOC+1』を使いましょう。入力位置は『=⇒』の後です。=⇒の後にDOC+1を入力し [実行] します(図2)。画面は11件目になります。21件目を表示するには『DOC=21』を使えば良い、ということはもうあなたにはわかっている筈です(図3、実行結果は図4)。

| LIST NODE - 文庫の内容表示はカーソルを移動後PF2です          |                                    | DOC | 21 OF | 86 |
|--------------------------------------------|------------------------------------|-----|-------|----|
| 1097379                                    | 経営財務と情報 / 日本経営財務研究会 中央経済社 1989. 7  |     |       |    |
| 1097494                                    | 出版経済研究 / 日本出版経済研究社 1989. 1         |     |       |    |
| 1071118                                    | 金融経済の国際化と日本企業 / 日本経済学会 千代田 1988. 9 |     |       |    |
| 1092887                                    | 平均日                                |     |       |    |
| 1073422                                    | 近代日                                |     |       |    |
| 1033365                                    | 現代日                                |     |       |    |
| 1034399                                    | 現代日                                |     |       |    |
| 1099086                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1032286                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1050389                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1044079                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1071000                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1071885                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1058855                                    | コメン                                |     |       |    |
| 1002143                                    | 日本の                                |     |       |    |
| 1097686                                    | 日本の                                |     |       |    |
| PF2= 詳細 PF3= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 |                                    |     |       |    |

【図1】

| CLASSIFICATION = 100                                        |                                | DOC | 10 OF | 86 | LINE | 1 OF | 14 |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----|-------|----|------|------|----|
| *MAINDATA                                                   |                                |     |       |    |      |      |    |
| < 書名・著者名                                                    | > 1086289                      |     |       |    |      |      |    |
| < 出版事項                                                      | > 現代日本経営のパフォーマンス / 植田栄二 [ほか] 編 |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 変京 : 同文館出版, 1988. 6          |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 269 p                        |     |       |    |      |      |    |
| **SUBDATA                                                   |                                |     |       |    |      |      |    |
| < 書名                                                        | > Gendai nippon keiei no p     |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | > afomansu                     |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | > 植田 栄二 Ueda, Ei-ji, 1937-     |     |       |    |      |      |    |
| ==> DOC=1                                                   |                                |     |       |    |      |      |    |
| PF3= リスト PF4= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/04/11 <DB00> |                                |     |       |    |      |      |    |
| 前画面終了=出納票                                                   |                                |     |       |    |      |      |    |

【図2】

| CLASSIFICATION = 100                                        |                              | DOC | 11 OF | 86 | LINE | 1 OF | 18 |
|-------------------------------------------------------------|------------------------------|-----|-------|----|------|------|----|
| *MAINDATA                                                   |                              |     |       |    |      |      |    |
| < 書名・著者名                                                    | > 1086985                    |     |       |    |      |      |    |
| < 出版事項                                                      | > 銀行「株」が問う経営 / 日本経済新聞社編      |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 変京 : 日本経済新聞社, 1989. 1      |     |       |    |      |      |    |
| < その他注記                                                     | > 239 p                      |     |       |    |      |      |    |
| < その他注記                                                     | > 金融経済自由化年表 : p298 EC域内・金融統合 |     |       |    |      |      |    |
| < その他注記                                                     | > の歩み : p299                 |     |       |    |      |      |    |
| **SUBDATA                                                   |                              |     |       |    |      |      |    |
| < 書名                                                        | > Ginko 'kabu' sa tou keio   |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | > 日本経済新聞社   Nippon keizai sh |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | >   nbunsha                  |     |       |    |      |      |    |
| ==> DOC=21                                                  |                              |     |       |    |      |      |    |
| PF3= リスト PF4= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/04/11 <DB00> |                              |     |       |    |      |      |    |
| 前画面終了=出納票                                                   |                              |     |       |    |      |      |    |

【図3】

| CLASSIFICATION = 100                                        |                            | DOC | 21 OF | 86 | LINE | 1 OF | 15 |
|-------------------------------------------------------------|----------------------------|-----|-------|----|------|------|----|
| *MAINDATA                                                   |                            |     |       |    |      |      |    |
| < 書名・著者名                                                    | > 1097379                  |     |       |    |      |      |    |
| < 出版事項                                                      | > 経営財務と情報 / 日本経営財務研究会編     |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 変京 : 中央経済社, 1989. 7      |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 178 p                    |     |       |    |      |      |    |
| < ページ数                                                      | > 経営財務研究双書 9               |     |       |    |      |      |    |
| **SUBDATA                                                   |                            |     |       |    |      |      |    |
| < 書名                                                        | > Keiei zaimu to joho      |     |       |    |      |      |    |
| < シリーズ名                                                     | > Keiei zaimu kenkyu soshu |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | > 日本経営財務研究会   Nippon keiei |     |       |    |      |      |    |
| < 著者                                                        | > zaimu kenkyu gakkai      |     |       |    |      |      |    |
| ==>                                                         |                            |     |       |    |      |      |    |
| PF3= リスト PF4= 検索 PF7= P戻し PF8= P送り PF12= 終了 90/04/11 <DB00> |                            |     |       |    |      |      |    |
| 前画面終了=出納票                                                   |                            |     |       |    |      |      |    |

【図4】

## GEMMA データベース状況

1990. 6. 1 現在

(単位: 書誌レコード数)

| 種 別 | 図 書    |        | 雑 誌    |       |
|-----|--------|--------|--------|-------|
|     | 洋 図 書  | 和 図 書  | 洋 雑 誌  | 和 雑 誌 |
| 内 訳 | 45,682 | 48,642 | 4,515  | 6,930 |
| 合 計 | 94,324 |        | 11,445 |       |

(システム係・三谷靖司)

## 法律情報データベース(LEX/DB)



外部データベース紹介第3弾。今回は、『法律情報データベース(LEX/DB)』を紹介します。参考カウンター(それはどこだ?なんて言わないで下さいネ)左側にある目の覚めるようなブルーの端末画面をご存知でしょうか。この専用端末を使って検索します。

さて、このデータベースは明治8年の大審院判決から今日までの民事・行政法に関する公表されたすべての判例とその関連情報の合計99,000文庫を収録しています。この情報が次の5つのカテゴリーに分類され、しかもこの5つのカテゴリーは同時平行的に検索できるようになっています。以下は、各カテゴリー別の対象法律分野です。

- ①法令等———直税三法の法律、政・省令、告示
- ②判例等———憲法編、行政法編、公職選挙法編、租税法編、民法編、商法編、民事手続法編、労働法編
- ③通達等———直税三法の基本通達、個別通達

- ④事例研究———所得税編、法人税編、資産税編、株式会社編、有限会社編
- ⑤一般情報———許認可実務手続書式(財務編、法務編)

さらに、このデータベースは判示事項(要旨)だけでなく、判例全文を提供している点も見逃せません。そして判示事項(要旨)と判例全文中に存在する法律専門用語、法条名はもちろん一般語からの検索ができる他、裁判所名や判決年月日指定による検索もできます。

気になる料金体系ですが、これは60円/分の接続料金を負担していただくことになります。ただし、入手した情報は一度フロッピーディスクにダウン・ローディングしてからオフライン状態で印刷を行いますので平均的な検索時間は概ね3分～5分で済みます。

一度気軽に利用してみてください。判例検索がすいぶんと楽になったなあと思うこと請け合いです。(参考係・山辺美津香)

### データベース検索例

\*\*\*TKC法律情報データベース(LEX/DB)\*\*\*

#### 《書誌情報》

情報提供 第一法規出版

【文献番号】 27802179  
 【文献種別】 判決/東京高等裁判所(控訴審)  
 【判決年月日】 昭和62年12月16日  
 【事件番号】 昭和六二年(行コ)第二九号  
 【事件名】 進級拒否処分無効確認請求控訴事件  
 【審級関係】 第一審 27800342  
 東京地方裁判所 昭和六一年(行ウ)第九二号  
 昭和62年4月1日判決

【判示事項】 1 高等学校の生徒を同一学年に留置きとする旨の処分が、抗告訴えを提出した生徒を同一学年に留め置く処分に直接影響を及ぼした数学1および英語1の科目の成績の範囲を超えたまたはその濫用があったと認められ、その処分は無効であるとして、その処分を取り消すこと。1とし、それに基づいて行われた事例。

【当事者】 控訴人 森口究  
 被控訴人 東京都立大山高等学校長

【裁判結果】 棄却

【上訴等】 上告

【掲載文献】 行政事件裁判例集38巻12号1731頁

判例タイムズ676号74頁

東京高等裁判所(民事)判決時報38巻10～12合併号109頁

南山法學13巻1号149頁1989年8月・小林武

【判例評釈】

全文(プリンタ出力) : 17頁

全文(FAX出力) : 10頁

## 《所蔵資料の紹介》

### 『日本統計索引』(R/350.3/9/v.1)

### 『日本統計索引 補遺 国別・地域別編』(R/350.3/9/v.2)

ある日のレファレンス・カウンターでの利用者と図書館員との会話から……。

① 統計資料を手際よく探したいのですが、何か簡単に探す手立はないでしょうか？

② 簡単にといわれましても、二つの意味があると思います。まず、ポピュラーな主要経済指標のようなものでしたら、年鑑類で簡単に探すことができます。そのほかに統計資料全体の中から、必要なデータを簡単に探し出す参考図書がありますが、……。

① 両方を知りたいですね。

② そうですか、じゃ両方をお話しましょうか。一つめは『時事年鑑』(R/059/11)などに載っている統計データを利用する。それで、不足でしたら、『日本統計年鑑』(SS(100)/350/1-1)があります。

① その違いは？

② 『時事年鑑』は比較的多くの項目を扱ってまします。国勢一般から土地・人口、気象、選挙、財政、金融、保険、証券、物価、鉱工業、商業・会社、貿易、農林水産、運輸・交通、労働、社会、教育・文化、世界と一応網羅していますが、比較的マクロなデータが多いですね。統計表の数では273種くらいあるはずですが。ただし、これでは『日本統計年鑑』の631表にくらべても少ないし、データもダイジェスト版ですから、利用目的によっては不十分です。『日本統計年鑑』は日本の統計のダイジェスト版で、巻末の索引項目数は4,967ですから、やはりこちらの方が便利でしょう。

① わかりました。もし両方に出ていなかったり、さらに詳細なデータを探したいときにはどうしたらいいでしょうか？

② それが先ほどお話ししました二つめの参考図書のことです。『日本統計索引』というのですが、それについて、少し詳しくお話ししましょう。統計になじみのない方にはこの検索が一番厄介です。この本の第一の特徴は日常語で検索ができることなんです。様々な統計表で使われている約45万語の用語の中から統計分類の大概概念を示す用語2,400語を抽出し、その中から、

約1万語を検索用の見出し語にして索引化したものなので、我々が学習や研究で必要とする統計項目の大半を日常語で検索できるわけです。これはさきほどの『日本統計年鑑』の索引の項目数の倍以上あるわけですから、この索引の持つ価値というものがよくわかり頂けると思います。

ちょっと使ってみましょうか。たとえば、主要経済指標の一つのGNP。ただし、GNPは略語ですので、国民総生産で引くことが肝腎です。ああ、ありますね、ここ(p.541)に。見出し語は「国民総生産」ですが、データの見出し語としては「国民総生産額」ですね。それに続けて略語と数字がかいてありますね、「環境2-3-1-1」、「東年-国富-1；労要4；科要9-1」ですか。この略語は国民総生産額のデータを掲載している資料名で、続く数字はデータの記載されている統計表の番号を意味しているんです。ですから、最初の例ですと、環境統計要覧の2-3-1-1表に「国民総生産額」の記述があることを示しているわけです。

① なるほど。それから必要な統計資料がわかれば、図書館で所蔵の有無を調べればいいわけですね。

② そうです、そのまえにさっきの続きを見ておきましょう。「国民総生産額」に関係のある項目、最初は「国民所得」ですね、その記述があって、資料名が同じように記載されているものもなかなか便利ですね。

第1部が項目索引、第2部が収録統計調査報告書目及び書誌事項、指定統計調査一覧、統計利用の手引(統計関連参考書解題)というのが全体の構成になります。

そのほかにも、『日本統計総索引』(R/350.3/15)や『統計情報総索引』(R/350.3/107)もあります。今回お話しした索引は、15年前のものですから、多少陳腐になった面もありますので、これらも併用して下さい。

① よくわかりました。これからいろいろな統計資料を活用できそうです。

(参考係・松林正己)

## 新タイトル募集!!

「“図書館報”!? なんだしらん、ださいでかんがね。」

「どえりゃーむずかしそーなこと、  
書いたりそーで読む気もせんがや。」

。。。。などと言う人がいるらしい。

そこで編集委員も考えた。。。。。

みんなに読んでもらうためにはどうすればいいのか?  
やはり、タイトルが堅いのかしらん?

こうなったら、みんなに決めてもらおうってことで、

“図書館報”にかわる、オッシュアレで親しみやすい  
**新タイトルを募集いたします。**

タイトルはもちろんのこと、ロゴタイプもあなたの自由自在。  
大胆な発想で、新しい館報にしてください。

応募方法は、下記の欄を切り取り、図書館内にある備え付けの  
ボックスに投函していただくだけで結構です。

締切は10月末日です。

----- 切り取って下さい -----

新タイトル \_\_\_\_\_

学生番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

《ライブラリーカレンダー》

南山大学図書館開館予定表

平成2年7月～9月

開館日(開館時間は9:00、表中の数字は閉館時間)

赤: 休館日

| 7 月    |              | 8 月    |         | 9 月    |         |
|--------|--------------|--------|---------|--------|---------|
| 1 (日)  |              | 1 (水)  | 16:30 ★ | 1 (土)  | 休館      |
| 2 (月)  | 18:30 ∞      | 2 (木)  |         | 2 (日)  |         |
| 3 (火)  |              | 3 (金)  | 16:30   | 3 (月)  | 16:30   |
| 4 (水)  | ★            | 4 (土)  | 休館      | 4 (火)  |         |
| 5 (木)  |              | 5 (日)  |         | 5 (水)  | ★       |
| 6 (金)  | 18:30        | 6 (月)  | 休館      | 6 (木)  |         |
| 7 (土)  | 15:30 ★ ∞    | 7 (火)  |         | 7 (金)  | 16:30   |
| 8 (日)  |              | 8 (水)  |         | 8 (土)  | 休館      |
| 9 (月)  | 18:30 ∞      | 9 (木)  |         | 9 (日)  |         |
| 10 (火) |              | 10 (金) |         | 10 (月) | 16:30   |
| 11 (水) | ★            | 11 (土) | 休館      | 11 (火) |         |
| 12 (木) |              | 12 (日) |         | 12 (水) | 16:30 ★ |
| 13 (金) | 18:30        | 13 (月) | 休館      | 13 (木) | 18:30   |
| 14 (土) | 02:00 予定 ★ ∞ | 14 (火) |         | 14 (金) | 18:30   |
| 15 (日) |              | 15 (水) |         | 15 (土) | 敬老の日    |
| 16 (月) | 16:30        | 16 (木) |         | 16 (日) |         |
| 17 (火) |              | 17 (金) |         | 17 (月) | 18:30   |
| 18 (水) | ★            | 18 (土) | 休館      | 18 (火) |         |
| 19 (木) |              | 19 (日) |         | 19 (水) | ★ 文     |
| 20 (金) | 16:30        | 20 (月) | 16:30   | 20 (木) |         |
| 21 (土) | 休館           | 21 (火) |         | 21 (金) | 18:30   |
| 22 (日) |              | 22 (水) | ★       | 22 (土) | 15:30 ★ |
| 23 (月) | 16:30        | 23 (木) |         | 23 (日) | 秋分の日    |
| 24 (火) |              | 24 (金) | 16:30   | 24 (月) | 振替休日    |
| 25 (水) | ★            | 25 (土) | 休館      | 25 (火) | 18:30   |
| 26 (木) |              | 26 (日) |         | 26 (水) | ★ G     |
| 27 (金) | 16:30        | 27 (月) | 16:30   | 27 (木) |         |
| 28 (土) | 休館           | 28 (火) |         | 28 (金) | 18:30   |
| 29 (日) |              | 29 (水) | ★       | 29 (土) | 15:30 ★ |
| 30 (月) | 16:30        | 30 (木) |         | 30 (日) |         |
| 31 (火) | 16:30        | 31 (金) | 16:30   |        |         |

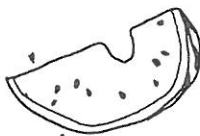
(注) ★ 印: 4年次生書庫内資料閲覧日(水=13:00～16:30、土=9:00～11:30)

∞印: 夏期休館中長期貸出取扱期間

(講習会情報) 文: 文献検索、G: GEMMA(初級)

なお GEMMA(上級)、日経テレコン(経済学科生用、経営学科生用)は実施日未定のため逐次掲示します。

《編集後記》



うだるような暑さの中、「涼しいだけの存在ではいたくない」とは、図書館のひとりごと。

“図書館報”にかわる新しいタイトル募集中です。詳細は前頁に。

(山辺・平松・山本・土屋)

南山大学図書館報 No.6

1990.7.2発行

南山大学図書館

〒466 名古屋市昭和区山里町18

TEL.052(832)3707